

「今後の重点的な取組の方向性」(事務局案)

参考

今後の重点的な取組の方向性 (第1回検討会議時)

第1回検討会議の議論の概要

・取組の方向性を焦点化していく。
・第1部会と第2部会でオーバーラップして議論することもある。

めざす「あいちの人間像」	取組の方向性
かけがえのない 自他の命を大切に することので きる人間	人格形成の基礎となる道徳性・規律ある態度を育成する
	高度情報化社会に対応できる情報モラル教育を充実する
	人間形成の基礎を培う幼児教育を充実する
自らの人生をたくましく切り拓き、 社会に生かすことのできる 人間	社会を生き抜く力を身に付けるキャリア教育を充実する
	一人ひとりのニーズに対応した特別支援教育を推進する
	社会生活を営む上での困難を有する者を支援する
健やかな体をつちかい、豊かな文化を 継承し創造することので きる人間	あらゆる活動の源となる体力の向上を図る
	基本的な生活習慣を確立するため食育を充実する
	伝統文化を尊重する心や文化芸術に触れ楽しむ心を育む
次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間	確かな学力を基礎とした世界で活躍できる力を育成する
	豊かな自然を守り引き継ぐ環境学習を充実する

・生活習慣、規範を身に付けることが大事で、これが成り立って初めて学習が成り立つ。
・我慢ができない、他の人を思いやることができないなど、低学年でトラブルを起こす子が非常に増えてきた。学校で指導はするが、高学年まで引きずっている。
・家庭の教育力の低下が一番大きな問題だと思う。親育ても考えていくべき。
・少年犯罪の原因は親につきる。
・特に情報化社会が影響している。

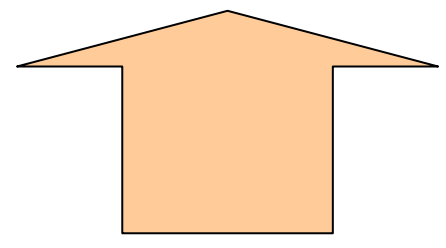
・産業界は人材育成のニーズを学校に伝えてこなかったことが反省点であり、そのため、産業界はキャリア教育に注目している。
・大学が就職率にのみこだわっているが、将来を俯瞰して学ぶことが大事。
・「よく学び、よく遊べ」と言っていたが、最近は、教員にも親にも働くという意識が湧いてこないのので、「よく学び、よく遊び、よく働く」と言うようにしている。キャリア教育が大事だと思う。
・家庭や個人が持つ困難など、手のかかるところに目を向けていくことがたたき台に出ていて、手厚いことができると思う。
・いくら言ってもできない家庭や、母子家庭や発達障害の子を持つ家庭など、網の目から外れる家庭は、家庭の事情に応じたきめ細かい対策で家庭の教育力を高めることが必要。

・精神的健康と身体的健康は車の両輪である。
・生活習慣、規範を身に付けることが大事で、これが成り立って初めて学習が成り立つ。
・家庭の教育力の低下が一番大きな問題だと思う。親育ても考えていくべき。

・学校に期待が集まりすぎており、限界が来ている。多様な価値観がある中でどのように学校が対応していくかが非常に難しい。その中で、環境教育や国際化、消費者教育などが、様々な形で持ち込まれており、学校が飽和状態である。この状態では学力の向上は無理。
・先生が生徒と触れ合う時間の確保が必要。
・生活習慣、規範を身に付けることが大事で、これが成り立って初めて学習が成り立つ。

今後の重点的な取組の方向性 (事務局案)

取組の方向性
人格形成の基礎となる 道徳性・規律ある態度を育成する
全ての人が力強く社会で生き抜く力を身に付ける
体づくりと基本的な生活習慣の確立を図る
確かな学力を基礎としてグローバル社会で活躍できる力を育成する



第1部会
第2部会

- 家庭・地域など社会全体による「横」のつながり
- 乳幼児期から一貫した「縦」のつながり
- 国・県・市町村の役割を明確化

・地域とよく言われるがよくわからない。(地域は当事者性が無い)
・対象者の移行期、ライフステージの移り目に目を向けていくことが必要。
・この計画の中身を社会に伝え、社会全体で考えていくべきである。
・社会全体で考えるべきで、そのためには、何かをするというよりも、社会の状況や雰囲気子どもを育てていくことが必要。いかにPR、知らせていくかが大事。
・いかにして教育関係者以外の人を巻き込んでいくかが鍵。できればマスコミも巻き込んでいきたい。
・学校と地域が情報を共有化し、お互いに知らないといけない。
・アクションプランが毎年掲げている重点的テーマをみんなに知ってもらうように、市町村も努力していく必要がある。

- 家庭・地域・学校が主体性を持った社会全体の「横」のつながり
- 乳幼児期から系統だった切れ目のない「縦」のつながり
- 国・県・市町村の役割分担を明確化